

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	低
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input checked="" type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input checked="" type="checkbox"/> ASD <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日常会話は可能であるが、話題が飛びやすく、会話がまとまりにくい傾向がある。</li> <li>• 持ち物の管理が苦手で、落とし物や片付け忘れが多い。</li> <li>• 自分の思いが相手に伝わらないとイライラし、暴言が出たり、手足が出たりして落ち着くまでに時間がかかることがある（服薬中）。</li> </ul>
	• 自立活動の目標	帰りの会で、頑張ったことを伝え、理由も付け加えて述べようとする事ができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span> 人間関係の形成 環境の把握      身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 理由を述べる事が難しい場合は、そのできごとを思い出させるような単語や気持ちを表す言葉をいくつか教員が伝える。</li> <li>• 本児の伝えようとする意欲を認めつつ、頑張ったことを自ら振り返って話すことができたことを賞賛し本児の自己肯定感を高めるようにする。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「今日は1日怒られへんかった」「約束を守りました」など、自分から頑張ったことを話す姿が増えてきた。</li> <li>• 帰りの会で1日の頑張りを問われる場面があることを理解しており、本児なりに日中の出来事を振り返っている様子が見られる。（帰りの会の直前に、上記の内容を自分から伝えてくる事が時々ある。）</li> <li>• 自分から理由を述べる所までには、まだ支援の積み重ねが必要である。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本児の課題や支援方法を明確に意識して取り組めた点は良かった。ただし、他児への対応やクラス全体の運営上、本児への支援が十分に行き届かなかったのではないかと感じた日もあった。今後の課題として捉えている。</li> <li>• 保護者とは、連絡ノートや電話を通して日々の情報共有（行動や成長点、課題など）を継続して行い、支援に一貫性をもたせるよう努める。</li> </ul>

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな大人との関わりの経験を積み重ねていく。</li> <li>他クラスの教員にも協力を依頼し、本児の成長点や課題について日頃から情報共有を行い、継続して関わってもら。特に、ことばやかずの授業など、担任がつかない場面での指導内容についても共有し、一貫した支援ができるようにする。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会での一日の授業の振り返りの中で、頑張ったことや楽しかったことを発表するとき、本人なりの言葉で理由を話すことができた。</li> <li>トラブルになった時など「(〇〇さんが△△してきていやだったから」等の理由を述べるのが日常生活の中で増えてきた。ただし、自分に都合の良いことだけを話したり、事実と違うことを話していたりすることもある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>「クラスを超えて学年全体で子どもを見る」ことの重要性を改めて実感した。(教員にとっては、より広い視点で子どもを捉えることができ、児童にとっても多くの大人との関わりを通して学びを得られるメリットがある。)</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級後の環境の変化(クラス替え)により新たな対人関係上の課題が生じる可能性も考慮しつつ、来年度も上記の取り組みは継続していく。</li> <li>友だちとの適切な関わり方(言葉遣い、態度)についての課題が出てきているので、より重点を置いて指導をしていく。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	低
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	• プレイルームなど、時間から時間へ活動が切り替わる際に調子を崩すことがある。特に、プレイルームから朝の会への切り替えの場面で起こりやすい。
	• 自立活動の目標	• 1日の予定を見通しながら、気持ちを切り替えて次の活動に取り組もうとする姿が見られる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span> 人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	絵カードやアプリを使用し、「おしまい」を意識してもらい、次の活動に取り組むことができる。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	プレイルームでの活動場面では、もう少し遊びたいという思いから気持ちが崩れることがあった。そこで、アプリで「おわり」を意識できるように、絵カードの表示と音で終わりを理解できるものを使用した。終わりの場面では何度か気持ちの崩れが見られたが、少しずつ「おわり」に慣れ、次の行動へ移ることができるようになってきた。次の段階として、絵カードのみで終わりを意識できるよう言葉かけを行い、最終的には言葉かけだけで終わりを理解できるようにしていく。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	見通しを持ち、「おわり」を意識することで、次に取り組める課題が増えていく。その点に着目して指導を行えたことは良かった。一方で、スモールステップを意識して取り組もうと思っているものの、まだ口頭指示など大まかな指導に留まっており、日々より良い指導を行えていないことが課題である。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	SSTの中で、全員が同じ支援内容を共有することで、同じ目標をもって支援することができた。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>終わりを意識できるようになると気持ちを崩さずに次の課題にむけての切り替えられるようになってきた。終わりを意識できるだけでなく、切り替える力を手に入れることができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>終わりを意識するという事は切り替えの上で難しくあり、好きなことを続けたい気持ちも理解できる。ただ口頭だけで伝えることには難しさがある為、絵カードを見せる、音で終わりを知らせるなど様々な織り交ぜた支援を必要なのだと感じた。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>一定の見通しを持つことで多くのことができることが増えた。切り替えられることができてきたが、特別時間割りなど見通しの持ちにくいものもある。そういった活動へも、引き続き見通しを持てるように取り組んでいき、様々な場面でも見通しを持ち切り替えができるようにしていく。</p> <p>また、不安や緊張などがなくなって、自分の世界が広がってきたことで常同運動に集中してしまい、目の前の活動に取り組めないことが多い。その為、切り替えの場面で集団活動から外れないような言葉かけや支援をおこなっていく。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	低
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 ■その他（ <input type="checkbox"/> 脱抑制型愛着障がい ）
	• 対象児童生徒の課題	自分のやりたいことができなかつたときや、気持ちが乱れたときに声をあげる様子が見られる。
	• 自立活動の目標	気持ちが乱れたときに、何が嫌だったのかなど、自分の気持ちを具体的な言葉で伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span> 人間関係の形成 環境の把握                      身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	場所を変えたり、別の空間（教室前の廊下など）に移動したりして、気持ちが整理するまで見守る。落ち着いた後には、端的に何がいけなかつたのかを自分の言葉で話せるよう、場面設定を行う。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	生活の「しっぽとり」では、鬼役ができなかつたことに対して「やりたかつた」と泣いたり、大きな声を出したりする様子があつた。その際には、「できないこともあります」と言葉かけを行い、気持ちが落ち着くよう支援した。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だつた支援の実践方法等	・気持ちが乱れた際には、気持ちを落ち着かせるために教室前の廊下で待機したり、教室内の椅子に座つて気持ちを整理したりする姿が見られた。気持ちが落ち着くと、なぜ気持ちが乱れたのかを言葉で伝えられるように指導することができた。 ・帰りの会での振り返りでは、「生活のしっぽとりで鬼をしたかつたけれど、またできたらいいな」と自ら発表する場面があり、自分の気持ちを言葉で伝えることができていた。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になつた支援方法等	・多様なフレーズ（手本）を増やし、状況に応じた言葉の使い分けができるようにする。 ・対人場面でのやり取りを練習し、周囲の人との良い関係を築いていけるよう支援していく。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2学期の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>給食準備中、友だちが台ふきで机を拭いている最中に「ふいて」と伝えていたため、「感謝の言葉を伝えた方が相手も気持ちいいよ」と言葉かけしたところ、「拭いてくれてありがとう」と自分で考えて伝えることができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で気持ちを伝えることに戸惑う場面では、「何て言った方がいいと思う？」などと問いかけ、一度自分で考える時間をつくるようにしている。</li> <li>・気持ちが乱れそうになった場合には、廊下などの落ち着ける空間で気持ちを整理できるよう促している。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員や友だちなどの周囲の人と良い関係を築けるように言葉を選んでコミュニケーションを行う。</li> <li>・自分の考えを整理してから相手に伝えるようにする。感情的になりそうな場合、環境を変えてクールダウンする。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めてのことに對して、事前に丁寧な説明をしておくことと不安が軽減されることが多くあった。</li> <li>・ 担任が1人いないなど状況をよく見ている、自分に注目がされていないと感じると注目獲得行動として他害が出るがあった。「しっかりと見ている」旨を伝えることが効果的であった。</li> <li>・ パニック時はつい言葉をかけてしまうが、何も反応しない方が本児が自分で気持ちを収めていきやすかった。</li> </ul>
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良い行動に對しても悪い行動に對しても、振り返りは根気よく、丁寧に続けていく必要がある。行動を振り返ることができるようになると、自分で行動を制御したり、コントロールできたりするようになっていくと思われる。</li> <li>・ 1対1で話をした方がよい時もあるが、全体に對して一斉に話をする方が学習効果がある時もある。友だちの意見も受け入れられることがある。クラスの活動（帰りの会など）の中にも、人との適切なかわりについての話を意識的に入れ込んでいくようにする。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月はじめにパニックが続けて3回あり、10月に1回、以降は大きく崩れることなく授業に参加することができた。10月以降は特に安定してきており、イライラして不穏になりそうな時は自分から「トイレにいく」などと教員に伝えてその場を離れることで、クールダウンしようとする姿勢が出てきている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最も効果的だった方法は、本児自身にしっかりと見通しを持たせるということである。他害やパニックなどの原因はほとんどの場合が不安からくるということがわかったので、すべての活動に對し、事前の丁寧な説明を行うことで落ち着いて取り組むことができた。</li> <li>・ パニック時は、あえて声かけはせず、安全を確保した上で見守ることが効果的であった。教員に指示をして自分の意を通そうとすることがあるが、それには応じず、静かに見守るのが良かった。落ち着いていく過程に概ね3回ほど感情の波があるが、徐々に振れ幅が小さくなり、話ができる状態になることが多かった。</li> </ul>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>(来年度の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員とのやりとりを通じて、感情のコントロールができるようになる。</li> </ul> <p>(課題)</p> <p>高学年になるにあたり、これまでとは性質の異なる新たな問題の芽が出てきている。例えば他者を自分の思い通りに動かすことで安心するなど、適切でない方法での関わりが目立ってきている。それらを改善していくことが課題である。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 自分の思いと違うことを受け入れる 3年次は金曜日が1便下校だったので、4年になってから金曜日が2便下校になったことが受け入れがたく、泣いてしまうことがある。時間割変更や生活グループの時間の把握、授業の流れの変更などを受け入れることが難しく、自分がこうであってほしいという言葉を繰り返し口に出し、泣いてしまうことがある。 いつもと違う流れでも、授業が始まると活動には参加でき、次第に落ち着くことができるようになってきている。
	• 自立活動の目標	変則的なスケジュールでも受け入れることができるようにする。 自分の思いと違う予定でも、落ち着いて活動に参加できるようにする。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span> 人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	ホワイトボードに貼ってある今日の予定や、壁に掲示している学年だよりの見る機会を多く設定する。 「1番〇〇、2番●●、◇◇で終わり」というように順序を示し、流れを受け入れやすいような言葉かけを行う。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会や授業が始まる前に、授業を行う場所や机を出すこと等を話すと、受け入れて落ち着き授業を開始することができた。</li> <li>金曜日の下校時刻については気にすることがなくなったが、2学期から火曜日が1便下校から2便下校になることが受け入れがたくなりそうである。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本児とのコミュニケーションをとることが多くなり、4月当初より関係が築けている。</li> <li>授業中に泣いてしまったり、大きな声を出してしまったりした時に、どのような対応をすれば落ち着けるのかがまだ手探りである。</li> <li>朝の会で1日の流れを確認するときに、場所や机を出</li> </ul>

		すか等をホワイトボードに書いて示し説明すると、受け入れることができた。本児が自ら書くこともあった。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期も引き続き前日、朝の会、授業の始まる前などに予定を伝えるようにする。</li> <li>・個人専用のホワイトボードなどを用意し、スケジュールを視覚化して確認できるようにする。</li> <li>・嫌いなこと、ものなどを伝えられる様な言葉を言えることができるよう練習する。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3連休や代休などをはさむと、学校がある日でも「やすみ！」と家と言うようになり、行き渋りが見られるが、遅刻や休むことはない。</li> <li>・2学期から火曜日が2便下校になったが、下校時間について受け入れがたい様子はなかった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児との関係が築けており、言葉でのコミュニケーションが多くなった。</li> <li>・朝にホワイトボードの時間割や学年だよりで予定を確認することで、変則的な時間割も受け入れることができるようになった。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	[課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>・服に対するこだわりがあり、冬でも半袖半ズボンを持ってくる。</li> <li>・長袖を着ることが嫌で着替えなかったり服を隠したりすることがある。</li> </ul> [目標] <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に応じた服を着られるようになる。</li> <li>・自分の気持ちを言葉で伝えられる経験を増やす。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：課題をやりきることに困難がある。</p> <p>認知面は高く、言葉での指示も通るが、その時に自分のやりたいこと（おもちゃやあそび、教室の環境整備や他者への注意等）に固執してしまい、自分の課題に着手することができないことがある。</p>
	• 自立活動の目標	<p>• 朝や帰りの準備や着替えなど、自分のことを一人でやりきるができる。</p>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span>      人間関係の形成</p> <p>環境の把握      身体の動き      コミュニケーション</p>
• 支援の手立て	<p>• 取り組むべき活動に自ら取り組んでいけるように、楽しみな活動（朝の学習やあそびなど）に取り組むべき活動の後に設定し、励みにできるように提示したり促したりする。</p>	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>朝の学習プリントのなぞり書きで、丁寧になぞれていた時に児童の自尊感情に働きかけるように目一杯褒めた。そのことがきっかけで、以前にも増して朝の学習に意欲的になった。プリントをするために、準備や着替えに早く取り組めるようになってきた。</p>
	<p>• 教員自身の成果や課題</p> <p>• 効果的だった支援の実践方法等</p>	<p>促しや褒め方がワンパターンになりがちになっているように思う。もっと意欲をかきたてるような言葉かけや提示の仕方に工夫が必要だろう。</p>
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <p>• 参考になった支援方法等</p>	<p>• 課題→楽しみな活動ができるという一定のサイクルが形成されるまで、繰り返し取り組む。</p> <p>• 「がんばる→褒めてもらえる」というような良い成功体験を積み重ねる。</p> <p>• 本人のやりたい、取り組みたい課題を用意する。</p>

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>楽しみな活動を励みに、着替えや朝の準備などの取り組むことがほとんどだった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>朝の学習でプリント学習をさせるなど、なかなかさせてこなかったが、それはそれで児童によっては、行動の原動力になることを知った。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>本人の中の課題に対してのモチベーションを保ち続けられるようにしていきたい。そのためには、本人のすこしの頑張りで乗り越えられるくらいのちょうどよい課題や、それに対しての報酬などで本人の中での成功体験を積んでいき、行動のための原動力となっていくようにしていきたい。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題：活動内容や状況の変化に対する理解 見通しが見つからないことや理解が難しいこと、急な予定変更が苦手、泣いたり物を投げたり人を叩いたりしてしまい、課題に取り組むことができなくなる。
	• 自立活動の目標	一日の予定や状況の変化、学習内容を受け入れ、気持ちを切り替えて学習に取り組むことができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <u>心理的な安定</u> 人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>□頭で伝えるだけでなく、文字や数字、絵などを見せて説明し、本児が理解しやすいようにする。</li> <li>• 気持ちを切り替えて課題に取り組むことができた時には褒める。</li> <li>• 先の予定として、本児の好きな活動をすることを伝え、本児が気持ちに折り合いをつけられるようにする。</li> </ul>
1学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童生徒の様子、変化、課題</li> <li>• 下校方法や学校生活の流れが普段と違う場合、泣くことが多くあった。また、教員側には原因が分からず、急に泣き出すこともあった。泣く以外に、人を叩いたり蹴ったり物を投げたりすることがあるので、注意が必要であった。このような場合、言葉で伝えて納得する場合もあったが、言葉が多いと余計に混乱することもあった。その場でメモ帳にひらがなや絵でかいて示すと、「うん」と納得し、次の行動へ移せる時もあった。次の行動へ移せた時にほめると、「うん」「できたね」と本児が答えることもあった。長時間不安定な気持ちを引きずってしまい、学習に取り組めない時や泣き声が大きすぎて他児に支障がある時にどう対応するかが課題である。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不安定になっている時に文字や絵で物事を伝えることは有効であると感じた。また、「〇〇したら〇〇しよう」と先にある楽しい活動を提示することが有効であった。今後も、本児がより理解しやすい方法を考えることが課題である。</li> </ul>
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不安定になっている時、理解を促そうとすることは大切だが、一旦その場を離れて、クールダウンできるようにすることも必要だと感じた。本児の様子や他児の様子、周りの状況を見て対応しなければならない。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定や状況の変化に対して、不安定になることはまだあるが、1学期より頻度は減っている。しかし、依然として気持ちが不安定な時に他児や教員を蹴ったり叩いたり物を投げたりすることもある。体が大きくなり、危険な状況になることも多い。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不安定になった時に、言葉で説明することは必要であるが、短い言葉が効果的であった。本児は文字や数字に興味を持っているので、「①～～」「②～～」と文字で示す方が落ち着くことが多かった。また、蹴る、叩くなどがある場合には、教室を離れ、クールダウンのために廊下を歩く活動を行った。本児は歩くことも好きなため、決まったコースを歩くことで気持ちの切り替えをすることができた。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦手なことや不安なことがあった時には、言葉で伝えたり絵カードを指さしたりすることで気持ちを伝える。教員とのやりとりや好きな活動を短時間することで、気持ちを切り替え学習に取り組む。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、■ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、■聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	• こだわり • 多動
	• 自立活動の目標	• 給食運びが友だちと一緒にできる。 • 着替えが一定の場所で行える。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	• みんなより早くスタート。 • 洋服等を指示して多動を抑制する。 • イヤマフの使用。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 少しずつ安定がみられるようになってきた。 • 表情が明るくなってきている。 • 自分自身でコントロールできるようになってほしい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 児童の思いを押し量ることができた。 • 課題は個別指導だけではなく全体を意識してダイナミックな指導を行う。 • 更衣の始動時洋服を示すだけで児童の集中と行動を促すことができた。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	• 給食運び、着替えへの支援はこのままの支援を続ける。 • 本児の強みを引き出しエンパワーメントしていく。
2学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化	• 給食運びは、ほぼクラスメイトと一緒に行動することができるようになった。 • 着替えは、一定の場所に留まることができていないが、少しずつ自分で留まる意識をもつことができるようになってきた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本児の持っている力を引き出す。</li> <li>・ イヤマフの使用時でも個別で指示をしっかりと伝えることで活動に集中することができた。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着替えが一定の場所でできることを引きつづき課題とする。</li> <li>・ 教員の言葉かけを聞いて行動に移せるようになる。</li> </ul>